

## 北部地域整備対策特別委員会行政視察（概要）

### 1 視察日

平成30年10月23日（火）～24日（水）

### 2 視察項目（視察都市）

・大分川ダムについて（大分県大分市）

### 3 参加委員

委員長：朝田 充、副委員長：萩原 佳

委員：稲葉通宣、河本光宏、篠原一代、上田嘉夫

### 4 調査概要

大分川ダムは、洪水調節、水道用水の供給等を目的として、昭和62年4月に建設事業に着手し、翌年12月に基本計画が告示された。その後、平成25年に本体工事に着手、平成29年にはダム本体盛立が完了し、本年、試験湛水を開始した。

ダムの形式は、安威川ダムと同じロックフィルダムであり、高さ91.6m、総貯水容量2,400万立方メートル、総事業費は約1,036億円で、平成31年度の完成に向けて、国土交通省が主導し、着実に事業を進めている。

ダム周辺整備については、大分市において実施され、工期は平成11年度から31年度までを目途とし、総事業費は約130億円を予定している。大分川ダムは、市街地から近く、また竹田市、久住町への中間地点に位置することなど、良好な立地条件にあることから、ダム周辺に当たる野津原地域の振興を図ることを目的に整備を進めている。具体的な内容として、交流拠点としての道の駅整備、多目的に活用できる天空広場の整備などをコンセプトイメージとし、ダム管理用道路を活用したマラソンやサイクリング等のイベントを開催するなど、周辺地域の持続的な活性化を目指している。



### 5 委員長所感

大分川ダムは、安威川ダムよりも一回り規模が大きなダムだが、ダム形式が全く同じで、安威川ダム完成時の具体的なイメージをつかむことができたと思う。当該地域は台風24号による豪雨の影響が大きかったとのことで、大分川ダムによりダム下流の七瀬川の水位低減が図られたとの説明であったが、想定外規模の豪雨が日本中どこでも降る可能性がある状況下で、ダムがあることによる影響については、早急に研究、検討されるべきである。

委員からの質問で「ダムができて、もう洪水は防げるという認識が、住民に浸透してしまうことについてどう考えるか」とあり、説明員が「ダムですべての洪水が防げるということはないので、ダム完成後も河川改修等と組み合わせた事業が必要」と答えていたことから、こうした課題や現実には向き合う必要があると感じた。